

平成24年度

事業計画(案)

自 平成24年4月 1日
至 平成25年3月31日

はじめに

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれています。我々の生業とする染織業は、日本人の美意識とものづくりに対する真摯な精神を礎にして、長い歴史に亘る技術研鑽を今日まで続けてきました。日本の発展の根幹には伝統産業の技術が基になっているものも多く、我々は伝統産業に携わる一員として、その技術を次代に継承していく使命を担っています。

公益社団法人京都染織文化協会は、染織文化と染織技術の啓発と継承を目的に、一般社会へ理解と関心を深めてもらうためさまざまな公益事業に取り組んでおりますことはご高承の通りでございますが、一方で、会員のための事業につきましても、公益事業とのバランスを踏まえながら今年度は積極的に推し進めていく所存でございます。

具体的には、染織全般に関する知識向上など会員の要望も踏まえながら有益な情報を伝える「会員向け染織講座事業」、染織技術を継承し次代に発展させるために伝統的な染織技術と先端技術を融合させた素材を開発し、現代にあった生活用品を提案する「京都ブレス事業」、この2事業を柱としての取組みを計画し、会員各位の更なる発展の一助となるべく行ってまいります。

会員の皆様方の更なるご協力を切にお願い申し上げます。

平成24年度
事業計画(案)

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■ 染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査

当協会で所蔵している染織祭衣装並びに全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏め、順次公開する。今年度は桃山時代衣装 24 領を対象に北川満哉氏(学芸員)の調査、解説のもと、作業を行う。

■ 「染織祭」の詳細調査並びに公開

昭和 6～15 年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」を北野裕子氏(龍谷大学非常勤講師)により詳しく調査を行い、インターネット上で展開するフリー百科事典・ウィキペディアに掲載して染織祭並びに染織大国・京都の認知を上げる。

■ 染織祭衣装の補修・修繕

今年度は平安時代の衣装を対象とし、補修・修繕を行う。

<対象衣装>

平安時代衣装「^{あこめ}袷」14 点を対象。

<依頼先>

高田装束店京都店(京都市上京区)

■ 染織祭衣装貸付並びに画像貸付協力

美術館、出版社等の要請に応じて衣装現物や画像の貸付協力を行う。

<衣装貸付>

- ・公益性のある美術館、博物館を対象に貸付。
- ・貸付期間が長期に亘る場合はメンテナンス作業が伴うため、1 領につき 1 万円のメンテナンス料を徴収する。

<画像貸付>

- ・染織文化・染織技術を啓発する当協会の目的に合った内容の出版物や番組等を対象に無償で貸付する。

「染織技術等継承事業」

■染織技術啓発のための小冊子制作（小学生～中学生）

きものとそれに伴う技術を簡単に解説した小冊子を制作し、十三まいり、七五三詣りの場にて参拝者に配布する。（1,000部制作）

■染織技術等に関するセミナー（大学生・専門学生～一般）

当協会所蔵の染織資料を実際に見てもらい、資料に使われた染織技術をわかりやすく解説するセミナー等を開催する。専門学校には教育機関経由の他、直接アプローチを行い、一般には当協会ウェブサイトや新聞等に広告を掲載をして参加を促す。
（年2回）

■インターネット上での公開講座（一般）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、当協会ホームページ上でミニ講座の動画配信を行う。

（ミニ講座）染織技術解説／文様解説等をテーマに複数回シリーズ化

（講師）北川満哉氏（学芸員）

（方法）1回の講座は10分程度とし、動画をデータ化して 유튜브 にアップロードし当協会ホームページ上で閲覧できるようにする。

「染織技術等継承に関わる助成事業」

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取り組むを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

2. 会員事業

「会員向け染織講座事業」

会員のために有益な情報を伝える染織講座を開催する。

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化を学ぶものからマーケティング、ビジネス戦略、次代の染織文化に関することなど、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。(年1~2回)

「染織業界発展事業」

■京都ブレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた素材を開発し、現代にあった生活用品を提案。1年かけて企画・開発を行い、翌年に展示会を設けて発表する。

3. その他

当協会会員の加入メリットとして、京都市美術館友の会へ会員登録を行う。